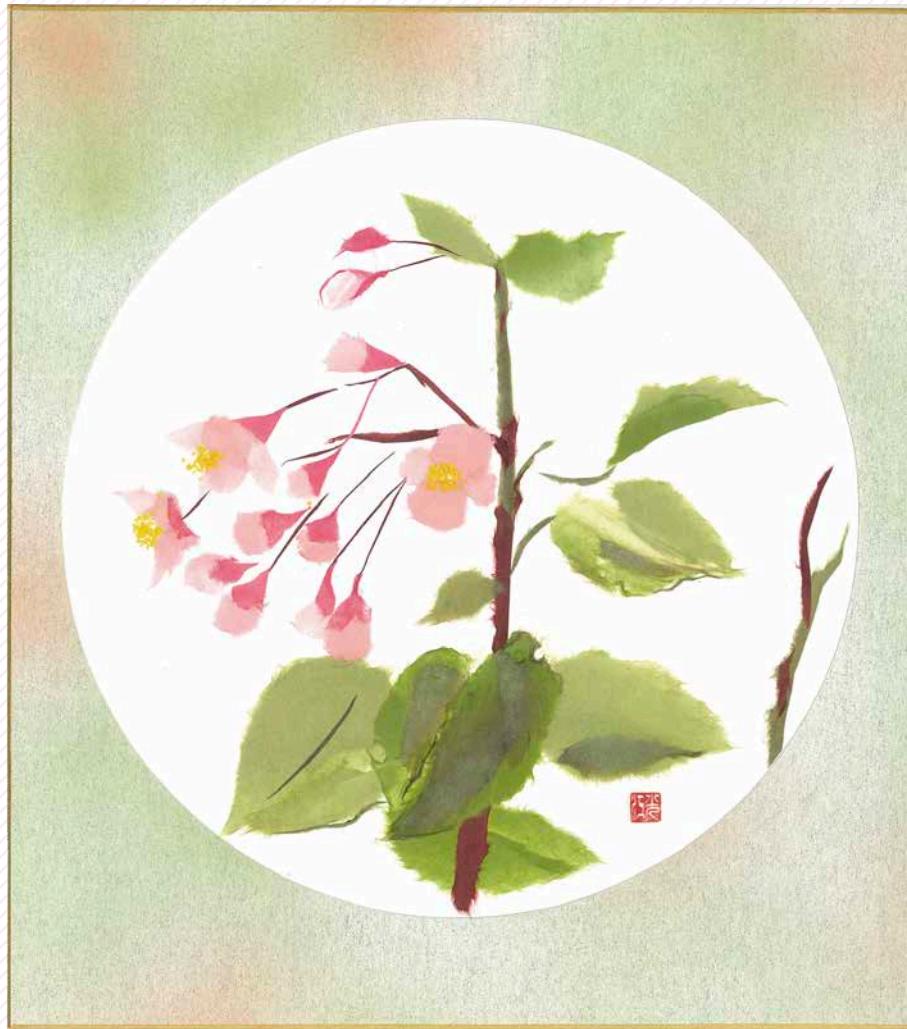




全日本私塾教育ネットワーク
私塾ネット広報

第71号

(2020年11月号)



しゅうかいどう
去りし人うつむき偲ぶ秋海棠（直人）



全日本私塾教育ネットワーク

理事長 仲野十和田 (ナカジュク)
TEL: 03-3963-5572

<https://shijuku.net>

センター事務局 中村 康彦 (中村学院)
〒210-0817 神奈川県川崎市川崎区大師
本町3-13 中村学院内
TEL: 044-266-0388

| 理事長コラム



先日、違う場所なのですが、続けて同じ市の公民館の同じような小ホールを借りる機会がありました。最初の公民館は、基本的には1つ席を空けて座るよう言われていましたが、ある程度自由にさせてもらいました。ところが、もう一方は4席に1つの割合(300名定員の会場が78人まで)で座るようにとのことで、さらに、登壇した人が2メートル以内の場合は、フェイスシールドは不可マスク着用、1時間に1回は換気などなど、同じ市の施設でしたが、対応はかなり違っていて驚きました。自塾の生徒の保護者、学校などでも、新型コロナウイルス陽性が出た方が、このところちらほら出てきました。学校も学級だけ閉鎖の場合や、学校全体が閉鎖になる場合がありますが、塾としてどこまで登塾させて良いか?判断に悩まされることも多いですね。

さて、エリア関東(渡辺浩代表)では、7月27日(月)～31日(金)5日の「オンライン学校説明会」が行われました。1日4校で計20校。最初この企画を聞いたときは、少々無謀ではないか?と思いましたが、東京私塾協同組合の方々の協力もいただき、見事にやり切りました。私学側も入説がしにくい時期だったので、喜んでいただけたようです。また、10月18日(日)に行われた研修「今すぐ始める『っぽい動画授業』」もオンラインで実施されました。実行委員の方々は当日Study Plusさんの会場をお借りしての運営。大変だったと思いますが、思考を凝らした内容で、コロナ2波の備えとしても、とても良かったと思います。また、若い実行委員の人たちの「まずはやってみる!」精神にも刺激を受けました。

毎年、10月の最終週3日間(10/28～30)で自塾の職員研修を行っています。内容は様々ですが、基本的に異業種の方とコラボで行うことが多いです。余談ですが、1日目は Go To トラベルを使って、芝公園にあるそぞこのホテルを利用しました。なんと、美味しい朝食付(4000円弱)に加え、地域クーポン券が付くという恩恵にあやかりました。さて、印象に残った研修として、「ダイアログ・ミュージアム(対話の森)」が運営する、「ダイアログ イン ザ サイレント」があります。研修担当の方は聴覚障害者で、参加者も耳が聴こえない設定(ヘッドホン着用)で意思疎通をしなければなりません。ジェスチャーも大事ですが、まずは「表情」が大切です。相手の顔をしっかり見て、いつもの何倍も豊かな表情をする必要があります。普段如何に気にしているかっ

仲野十和田(ナカジュク・東京都)

たかに気付きます。現状、マスクより上の部分の表情が如何に大切なかを感じる研修でした。一般的に「普通の顔」は周りの人からは「怒っている顔」に見られるそうです。私もよく、普通にしているつもりが、「顔が怖い」と言われます(笑)。実は、以前に同社主催の「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」というプログラムに参加したことがあるのですが、これは、真っ暗な空間の中で共同作業をするという設定です。研修担当は、視覚障害者の方です。周りが見えない状態の中では、相手に正確に物事を伝えなければなりません。なかなか難しい中、研修担当の方がスムーズに行動しているのが印象的でした。普段如何に周りの人に適当に伝えていたかに気付かされます。人に伝えた気になり、更に言ったことが実行されていないと自分の伝え方にも問題があることは棚に上げて、相手のせいにしたりしていた自分に気付きます。両プログラムとも弱者に対してその人の立場になれる勉強にもなるので、生徒たちにも体験させたいと思いました。今はコロナの影響で、「ダイアログ・イン・ザ・ダーク」はお休み中ですが、グループでも個人でも申し込みができます(<https://taiwanomori.dialogue.or.jp>)。オンラインのプログラムもあるようです。

10月の3、4週は「ハロウィン週間」で各教室、趣向を凝らします。今年初めての企画で生徒の評判が良かつたのが、『折り紙』。iPadを渡してYouTubeを見ながら折っている姿をみると「勉強もそのくらい集中してやってよ」と思わず言いたくなります(笑)。そういえば、数年前に私塾ネット全国研修でお呼びした、オリィ研究所の吉藤健太朗さんは特技が折り紙だったことで、研究所の名前が付けられたそうです。天才を育てるのに『折り紙』は良いかもしれません…。



10月6日、私塾ネット会員の大沼信雄先生が他界されました。約1年前に手術をされたあと、元気なお姿でお会いしていたので驚きました。震災後、東北のことを何よりも考え行動される一方、プライベートでは無邪気で純粋な様子が伝わり、誰からも愛される方でした。謹んでお悔やみ申し上げます。

| エリア通信



**エリア東北 佐々木 康
(やまばと学習館・青森県)**

青森県内では10月中旬に発生したクラスターの影響で、多数の感染者が発生しました。未だ予断を許さない状況が続いておりますが、ここでは夏の講習会に関する当館の動きについて振り返ってみたいと思います。

夏の大きなイベント、“夏期講習会”を開催するにあたり、今年度はこれまでにない取り組みを導入しました。

当館は基本的には集団一斉指導を行っておりますが、中学3年生と小学6年生の受験クラスのみを集団指導で指導し、他の学年については“夏期アシスト”と称したフレックス登校制で三密回避をし、更にeトレを使用して各学校の進度差による既習範囲のズレを解消する指導を行いました。eトレについては、特に小学生の理科・社会などレギュラーの授業内で指導をしていない教科にも触れることが出来、大変好評でした。

また、同時に取り入れたのが「オンラインによる集団指導の参加」です。青森県青森市では全国に先駆け、4月中旬より全小中学校の休校期間、家庭でのオンライン指導が行われました。当館もそこに合わせて4月よりオンラインチャットアプリの「zoom」を活用した指導を開始しておりました。これを夏期講習会でも利用し、希望者にはご家庭からオンラインで集団指導に参加して頂いております。この取り組みは現在、再びコロナウイルスの感染が広がってきた10月、11月に再度活用することが出来ております。



これらの取り組みを行うことができた要因としましては、前述の通り4月からオンラインの準備を進めてきたこと、そして補助金等を活用できたことが挙げられます。

4月の準備については、今思うと本当に苦労が多いものでした。機材の準備は勿論、その使い方、スタッフとの研修などを進めてきましたが、地方では各ご家庭のWiFi設備が整っていない、あるいは視聴する端末が無い（保護者の方しかスマホを持っていない）状況も多くみられました。アンケートを取ったところ、全塾生の約3割のご家庭がオンライン授業を受講できない状況であることが判明しました。当館はこの問題に対し、レンタル用の機材を25台購入し、どの生徒もご家庭から受講できる体制を整えました。ただ、環境によっては回線速度が遅くなるという問題も出てきました。スタッフも在宅で指導をしていたのですが単身住まいの大学生はアパートからオンライン指導をする際、大きなファイルを画面共有すると回線が止まってしまう等々、日に1つ2つ問題が発生し、寝る間もなく対処する必要がありました。

大きな出費が重なる中で活用したのが、国や自治体、商工会議所の補助金でした。活用できるものは全て申請し採択を受けました。特に、商工会議所が窓口となっている「小規模事業持続化補助金」について今年度分を含めこれまで4回採択を受けております。今年度は「全教室に1台の空気清浄機の導入」という内容で採択を受けました。これから季節のウイルス除去、あるいは花粉症などのアレルギー対策に大いに活用できることと思っております。小規模「事業持続化計画は、自社の売り上げ目標や問題点の洗い直しなどもできる為、大変活用できるものでは是非皆様にもご活用いただけたらと思います。

夏期講習会を終え、短い津軽の秋も終わりました。先日も窓を開けたら、もう雪が積もっていました。当館ではこれから冬期講習会を迎えるにあたり、夏期講習会運営を再活用するもの、また反省すべき点を精査している最中であります。オンラインのメリットとして、普段の集団指導ではどうしても声を出せなかった子も、画面越しであれば積極的に質問をしてくれる、という点がありました。ただ、子ども達が解いている過程を見る事ができない（顔は見えるが手元が見えない）という面もあり、演習形式の指導をどのように進めていくか考えていく必要があります。インフルエンザの流行り出す時期でもあります。体が資本の仕事、健康には十分注意をしながら受験期の指導をしていきたいと思うところです。



**エリア関東代表 渡辺 浩
(渡辺塾・東京都)**

「新型コロナウィルスが日本国内で確認！」という報道から早いもので1年が経とうとしています。この未知なるウィルスとの戦いは始まったばかりで、2021年にコロナ前の日常生活を取り戻すことができるのかどうかは依然不明です。しかし、学習塾として、新しい日常生活に対応すべく、引き続き目の前の生徒さんの為に何ができるのかを考え、実行に移していくほかありません。私塾ネット関東としても会員塾様の生徒さんへのフォローはもちろん、全力でサポートしてまいりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

さて、私塾ネット関東では夏期講習を終えた9月以降、2つの大きな研修を行いました。一つ目は東京都の私学さんにお声掛けし、私塾ネット関東の会員塾様はもちろん、東京私塾協同組合様やNPO塾全協様にもお声掛けして、Zoomでのオンライン学校説明会を開催いたしました。しかも1週間、月曜日から金曜日まで1日4校お招きし、全部で20校の私学さんにご説明頂きました。例年はこの時期になると各校が独自に説明会を行い、ほぼ毎日どこかの学校で説明会が行われているという状況ですが、今年は新型コロナウィルスの感染防止のため、ほとんどの学校が中止、又は規模の縮小、又はZoomでのオンライン説明会となっていました。その状況を見て、任意団体として日頃お世話になっている私学のために何かできないかとエリア関東の役員の先生方にご相談させていただいたところ、このような1週間オンライン説明会という形で出来ないかという流れになりました。東京私塾協同組合様にもご協力いただき、東京都の私学ほぼ全校に案内を出させていただいたところ、すぐに多数の学校から反応があり、あっという間に参加20校が決まりました。塾からも1週間でのべ100人を超える参加があり、この秋にも第2回目を開催してほしいというリクエストまでいただきました。ただ今、第2回目の開催に向けて準備しております。

二つ目は毎年10月に行っている秋の研修大会です。今年はこのような状況を踏まえ、「今すぐ始める動画授業」というテーマで、動画に関しては全くの初心者の先生から、ある程度動画を授業で活用されている先生方ま

でを対象に動画作成とUPの方法までを研修させていただきました。こちらの企画もエリア関東の役員の先生方と夏前から相談し、来るべく第2波や第3波に備え、予めしっかりと準備をしていくという意見から立ち上りました。会場も昨年の年末研修会でお世話になった『Study Plus』さんの会社のワンフロアをお借りし、実行委員の先生方6名だけ集まり、そこからZoomを用いてオンラインで中継開催という形になりました。Study Plus様には感謝申し上げます。ありがとうございました。また、今回の研修大会はエリア関東だけでなく、全国のエリアにもお声掛けさせていただきましたところ、北は北海道の神野先生、南は山口県の芸城学院の先生方にもご参加いただきました。日曜日の午後という時間に時間を作っていただきまして誠にありがとうございました。繰り返しになりますが、私塾ネット関東は会員塾様に喜んでいただけるような研修をたくさん行ってまいりますので、今後とも宜しくお願ひいたします。



**エリア中国代表 西本雅明
(パワーゼミ西本)**

器械体操をしていたという健康的な体つきで、年齢もほぼ変わらない多賀城市の大沼先生の訃報を聞き衝撃を受けました。「進学情報CAN」で感じた真面目な姿と国分町での圧倒的なパフォーマンス。僕にはないパワーを羨ましく思っていました。東京や宮城に出かけても、もうお会いできないと思うと、とてもさみしいですね。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

さて、中国支部の近況です。今年度は春からリモート会議になり対面での会議はありません。11月15日の忘年会もリモート宴会になります。内容については、今年も西川先生（ノーベル学習館）に企画や運営をお任せしています。西川先生は広島で一番の遊び上手ですので、はずれがありません。リモートではありますが、どんな会になるのかとても楽しみです。

僕の塾は広島県の東の端にある福山市、さらに福山市の極東に位置します。都会ではないので、コロナ感染症での入院患者は今のところいません。コロナ感染症のニュースは地元には無関係な雰囲気が漂っています。

(都会に行かなければ大丈夫なのだ)の雰囲気です。僕はビビっていますが、福山の塾や学校はあまり怖がっていないように感じます。逆に僕のようにビビっていると、「変な奴」扱いを受けます。修学旅行も都会にはいかなくなっていましたが、沖縄は予定通りに行くようです。「Go to travel」を使って、かなりリッチな修学旅行になるそうです。地元の塾の集まりでは例年通りに勉強会や公開模擬試験を企画しています。どの塾でもコロナ感染予防のための自粛期間があっても、売り上げを落とさないようZOOMや他のツールを無理やり使って、授業を確保したり退塾生を出さないよう努力したりしたようなので、「持続化給付金」の申請要件を満たさない塾が多いようです。逆に申請要件を満たしたとすると塾は倒産してしまいます。僕のところも頑張りましたが、残念ながらトータルで-20%です。10月は例年通りにもどりましたが、生徒たちのカリキュラム消化と同様に取り返しあれません。

個人的なことですが、昨年車を購入した時に、2020年度は大学入試改革の年だしオリンピックもあり、記念すべき年になるはずだからと思い、ナンバープレートを「2020」にしたのですが、コロナが流行したりオリンピックが延期になったりで散々な番号になってしましました。来年はいい年になればいいですね。



**エリア四国 湯口 哲朗
(湯口塾・香川県)**

新型コロナと授業への影響について

全世界的に広がった新型コロナウイルスは私たちの生活にも多くの影響を与えました。塾業

界においても、3月から5月にかけての営業自粛によって通常授業ができなくなり、新たな営業形態を模索せざるをえなくなりました。その際に、私塾ネット関東の先生方より、ZOOMを使ったオンライン授業についての勉強会にオンラインでお説明いただきました。お陰様で、ZOOM授業を実施するにあたってとても参考になりました。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

私どもの塾は四国の片田舎にあるため、都市部、特に関東圏での状況は、報道されたもの程度の情報しかもつていません。ここでは、地方から見た新型コロナによる

塾業界からの一例をお伝えできればと思います。

四国では、新型コロナに対する学校や保護者の対応は、3つのタームに分けることができます。第1は、2月から5月にかけての「パニック期」で、授業を行うかどうかや、休塾の問い合わせが一番多い時期でした。そのピークが4月中頃からの営業自粛要請の時期で、当塾では親しい塾の先生方とオンライン授業の行い方について情報収集し、授業の再開方法についてあれこれ試行錯誤していました。新中学1年生の募集については、例年、年末年始に行うため、募集への影響が一部だけで済んだので、個人的にはとても助かりました。

第2は6月から8月にかけての「感染拡大期」で、周囲で感染が広がる中、いかに感染を避けつつ営業を続けるかに注力していました。当塾では、一部の教室を完全オンライン化し、ZOOMを使った一斉授業を1か月間実施したり、短くなった夏休みの中で、できるだけ効率よく夏期講習の時間を確保するため、YouTubeを使った配信授業の準備をしたりしました。これによって欠席者の振替授業をしなくて済んだだけでなく、授業の見直しをして復習をすることができたと、生徒や保護者の方だけでなく、職員の間でも好意的な反応を頂きました。感染対策を万全にし、それを保護者の方に積極的にアピールすることで、ほとんど休塾の問い合わせなく教室での生授業を続けることができたのは、本当にありがとうございました。

第3は9月以降より、11月現在に至るまでの「共存摸索期」で、感染拡大を防ぎながらも授業の遅れを取り戻し、受験勉強を進めています。幸いなことに、GOTOトラベルによる感染再拡大もあまりないため、授業を続けることに対する要望がとても多く、いつもよりも途中入塾希望は少し増えているように感じます。あとは新年度の募集に向けて、校門配布をせずにいかに効率的に確実に告知をしていくかが課題で、塾内でいろいろと対策を考えている状況です。

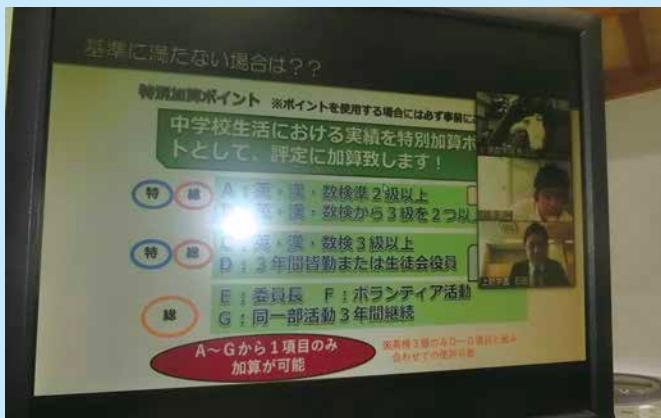
この冬も、引き続き厳しい状況ですが、授業の遅れに対する不安や学習指導要領の改訂など、塾への潜在的な需要はいつも以上にあると考えています。新型コロナに負けることなく、お互いにがんばりましょう!



オンライン 学校説明会

5日連続20校に拡大

7月27日～31日

**報告****長江広紀(英数学院)**

コロナ禍。苦境に立たされていたのは、塾だけではありませんでした。相談会も開催できず私学の先生方は募集活動で大変な状況でした。エリア関東では、賛助会員の学校関係者に少しでも力になれればとの思いから、7月8日にzoomを使ってオンライン学校説明会を行いました。京華学園、駒込中学高等学校、東京成徳大学中学高等学校、八雲学園中学高等学校の4校の先生をお招きし、各校25分の紹介と質疑応答を行いました。学習塾関係者の参加は18名でした。

これでオンラインの運用に実績を作ったことで、次回もという声が出ました。そこで、東京私塾協同組合さまとコラボして、第2回を7月27日～31日の5daysで開催することになりました。参加校の声かけは東京私塾協同組合さまにお願いしました。私は時間の調整、ID・パスワードの連絡、募集担当の先生方とのやりとり、東京私塾協同組合の先生方も含めた連絡、ホスト、司会進行などで、かなりの激務となりましたが、無事に20校の学校の説明会は終了しました（渡辺代表と中村センター事務局長にもホストをして頂き、助けてもらいました）。

私の塾がある神奈川は、東京都と比べ、私学の数自体が少なく、あまり私学の先生との接点がありません。今回、私学の先生との付き合いが自塾の生徒たちのためにとても大切だということを学びました。Vもぎ・Wもぎを進学の参考資料にしてくださる学校があることも知りました。また、多くの私学の特長も知ることが出来、私立に東京の学校を受けるケースが多い川崎の塾として、たくさんの学びがありました。

今回の試みは、何より私学の先生方に喜んでいただきました。コロナ禍が収まった暁には、直接面と向かってお話しできればと思います。

鈴木幸広理事長をはじめ、東京私塾協同組合さまには大変お世話になりました。謹んで御札を申し上げます。



新しい学習塾団体 合同会議について

報告**鈴木正之(いぶき学院)**

平成22年3月1日、首都圏に本部を持つ学習塾団体で「学習塾団体合同会議」(以下、合同会議)が発足しました。

設立趣旨は「学習塾の団体が一つの場に集まり、業界の健全な発展及び学習塾に通う子供たちの未来のために、広く会議を開催していく必要性を強く感じることから、私たちは公正で透明な合同会議を開催することに同意しました。」で、情報の共有や各団体の行事日程のすり合わせが主な活動でした。

時は流れ、今の社会や学習塾の状況に照らし合わせ、新しい合同会議をつくろうという話になりました。情報共有はコンソーシアム協議会にて行われ、行事のすり合わせについては崩壊している現状を踏まえ、各団体の負担を軽減しつつ会員塾の皆さんに多くの研修を提供すべく、「各団体イベントへの相互参加による参加者確保を目指すのではなく、各団体の良さを活かしつつイベントを共有することで、各団体のイベント回数減と会員塾のイベント参加機会増を目指す。社会のために、必要なことを、必要な人に提供する。」ことをしていくことになりました。

目的は「弱い立場である子供達や塾の先生の気持ちを推し量り、業界の健全な発展及び子供たちの未来のために我々ができる事を実行していくものとする」とし、活動としては①情報の共有と発信は継続し、②学習塾業界としての方向性の模索、イベントの共有と独自イベントの開催となります。

学習塾団体の行事予定はクラウド上に各団体が入力し、全団体の予定をどこでも閲覧できるようにします。ホームページで各団体の研修会等のイベントを告知して会員団体の学習塾の先生方が必要なイベントに参加できる仕組みづくりをします。

今回、任期満了に伴い合同会議の役員の改選が行われ、私鈴木が代表幹事、坂田義勝氏が副代表幹事に決定いたしました。他の役員人事は各団体2名の代表者の中から、1月の合同会議で決定となる予定です。

皆さんからご意見、ご提案をお寄せいただき活動に反映させていきたいと考えております。よろしくお願い致します。

合同会議参加団体と11月現在の代表者(順不動、敬称略)

- 公益社団法人全国学習塾協会……稻葉秀雄
- 全国学習塾協同組合…………森貞孝
- NPO学習塾全国連合協議会……内藤潤司
- 私塾協同組合連合会…………坂田義勝
- 東京私塾協同組合……………
- 埼玉県私塾協同組合……………新井恵詞
- 茨城県学習塾協同組合……………
- 神奈川県私塾協同組合……………
- 千葉学習塾協同組合……………龜山直人
- 全日本私塾教育ネットワーク……鈴木正之



エリア関東 秋の研修大会

報告

長江広紀（英数学院）

新型コロナの感染拡大が止まりません。私たち学習塾のすぐそばまで押し寄せてきています。社会でもテレワークなど新しい仕事のあり方が定着しつつある中、感染拡大第3波に備えるためにも、自塾のアピールのためにも、手作り動画にチャレンジしてみませんか。

このような謳い文句でエリア関東秋の研修大会「いますぐ始める『っぽい動画授業』」が10月18日にzoomで行われました。北は北海道から西は山口まで総勢31名の先生方にご参加頂きました。

前半の進行は、宮澤歩副代表兼研修部長（秀英ゼミナールSS教室）。田中宏道先生の動画を見て頂き、まずはどんな動画が撮れたらいいか、自塾の特徴やアピールポイントは？について、考えていました。その後、4つのパターン（ワンポイント動画、板書動画、授業実況中継動画、YouTube大学型動画）を提示し、どのパターンの動画を撮ると自塾にマッチするかを考え、4つのグループに分かれて話し合いました。ブレークアウトから退出後、代表者にそれぞれ話し合った内容を発表して頂きました。

その後、実際の撮影での注意点（道具、照明、音声、構図）、撮り方の注意点（時間、視線・立ち位置、小道具）について宮澤先生からお話があり、その後「動画に魂を入れましょう」ということで田中宏道先生にお話し頂きました。

進行は小泉正太先生（ラボ寺子屋）に代わり、できあがった動画をYouTubeへのアップのしかた、YouTubeでの運用の注意点などのお話をありました。

今回のテーマはスマホ・三脚・ホワイトボードの3つのツールを使って、一番シンプルで極力お金をかけないオンライン授業の作り方でした。参加者はおおむね、満足して頂けました（後にアンケート結果を記します）。知らない誰かの授業より、自分の先生の作る手作り授業だから、生徒たちも集中できるし、よく分かるはずです。

コロナ感染が再び勢いを増しています。再び何が起こるか分からない状況です。そういう意味では、今回の研修大会は非常にタイムリーで有意義な研修になったと思います。

開催に当たり、数ヶ月前から実行委員の先生方と話し合いを重ねてまいりました。改めて御礼申し上げます。また当日スタジオをお借りしたStudy Plus株式会社さまにも御礼申し上げます。

エリア関東では、これからもさまざまな企画をしていきます。Zoomだと地域の枠がありません。他エリアの先生方も、是非エリア関東の研修にご参加ください。

「っぽい動画授業」

誰でもできる
一番シンプルで
お金をかけない方法

動画授業を始めたい
YouTube デビューしてみたい
塾のアピール動画をつくりたい
動画を塾の引き出しの一つに！

10月18日(日)
15:00~17:30

ID
756 454 2424
PW
●●●●

※PWをお申込みいただいた方に個別にお知らせします

お申し込みは…
塾名・参加者氏名を明記の上、「秋の研修大会参加申し込み」というタイトルで、私塾ネット開業統括長江広紀まで
FAX(044-777-4582)
Mail(net-kanto@shijuku.net)
連絡先:090-6548-4349(長江)

50
名限定です



<アンケート結果>

- 1) 開催時期：大変満足 43.75% 満足 37.5% 普通 12.5% 評価できない 6.25%
- 2) 時間帯：大変満足 31.25% 満足 25% 普通 18.75% やや不満 12.5% 評価できない 6.25%
- 3) 動画基説明：大変満足 50% 満足 50%
- 4) 動画の構成・考え方：大変満足 50% 満足 50%
- 5) ワーキング：大変満足 37.5% 満足 31.25% 普通 25% 評価できない 6.25%
- 6) YouTubeへのアップ：大変満足 43.75% 満足 50% 普通 6.25%
- 7) 運用の注意点：大変満足 50% 満足 50%

追悼特集

令和2年はコロナ騒動の混乱の中にはあって、多くの訃報に接する年であった。本号ではいずれも私塾ネットと縁の深い3名、平林治さん、大沼信雄さんそして實吉幹夫さんの追悼文を、故人に縁の深い方々にお願いをした。



2005年、大井町から教育を考える会(OKK)の情報交換会後の懇親会。左から、鈴木正之先生、鎌田先生、實吉先生、鈴木清彦先生(現OKK副理事長)、後ろは辰巳先生と木谷先生。

前東京女子学園理事長校長の實吉幹夫先生への追悼文を、鈴木正之会長を通じて、昨年まで實吉校長の右腕として活躍をされていた、元教頭の辰巳順子さんにお願いをしました。そして珠玉の一文をいただき、故人の心温まる人となりに接することができた。辰巳さんに感謝したい。(編集部)

實吉幹夫先生を忍んで 東京女子学園元教頭 辰巳 順子

實吉先生は、昭和60年に私が専任教員になった翌年に東京女子学園に来られました。その時学校は3棟あるうちの2棟が新築中で、その一つに当時では最新式の英語LL教室が設けられました。實吉先生は、まだ新任の私をその部屋に連れてていき、LL授業に必要なソフトができる限り全部そろえて欲しいと依頼されました。楽しい英語教育を目指していた私は、前任校では、LL授業が大好きで思い切り楽しくカラフルな画像や動画を使って授業をしていましたので、うれしくなってすぐにお引き受けしました。予算はかなり高額になってしましましたが實吉先生はすべて引き受けてくれて、誰も使おうとしていないLL教室を自由に使うように指示されました。私にとっては夢のような出来事でした。この時、私はこれからの英語教育に理解があり、私を応援してくれる實吉先生について行こう、と決心しました。このあとも、英語のスピーキングやリスニングの力を伸ばす新しい教育方法や、アメリカ、オーストラリア、セブ島への英語研修の開始や改善を、費用がかかるにも関わらず、応援してくれました。反対もあった中で、實吉先生の応援がなければできなかったことばかりで、心から感謝の気持ちでいっぱいです。

實吉先生は学園に来られるとすぐに自分がやるべき仕事として、広報活動をお始めになりました。塾の先生方の集まりには積極的に参加し、2次会、3次会と最後まで残られる、と言わっていました。塾の先生方と一緒にビールを飲みながら、あれこれと議論をすることを楽しみにしていました。

實吉先生は、教育には理念が必要で、すべての教育方針、授業目標はその理念に基づいていかなければならないとお考えでした。常に教育関係の本を数冊抱えていらして、本校の教育の方向性について考えられていました。当時、他校の若く情熱あふれる先生がたが7~8人東京女子学園に集まり、實吉先生を中心に教育の在り方に熱い議論を交わす研究会を開いていました。十数年も続いていたと記憶しています。そのメンバーの先生方はそれぞれの学校で教育改革を進め、教頭や校長になって活躍していました。この先生方の絆も塾の先生方の絆と同じように、實吉先生の強いネットワークの一つになったのだと思います。

私は、「楽しくなくちゃ英語じゃない!」をモットーに生徒が大好きなニンテンドーDSやiPadを取り入れたり、本校独自の英語合宿や生徒の立ち居振る舞いを直すために礼法の授業を企画したりしました。新しい取組みが好きで、次から次へと企画書を出す私に、實吉先生はいつも、まずは本校の教育理念とのかかわりをしっかり考えるようにと諭されました。わかつて頂きたくて、早く実行したくて、不得意な理屈を重ねて戦っているつもりでした。實吉先生がお引きになる直前にそのことを思い出話としてお話ししましたところ、「でもね、思い出しても。あなたの要求は最後にはすべて全部通したでしょ」と言われました。なんとか理屈を作つて戦っているつもりでしたが、実は暖かい大きな力に包まれていたのだな、とつくづく感じました。

また、實吉先生は、理屈抜きに生徒が大好きで、本当に愛情を持って接していました。学園生活だけでなく、彼女達の将来の幸せまで考えていました。全校生徒の名前をフルネームで覚えていらして、出身塾、部活、家庭環境、どんな科目が得意で最近急に成績が上がったか、下がったか、など、コンピューターのようでした。校内では生徒には機会さえあれば、声をかけていました。廊下ですれ違う時、エレベーターの中で、中庭のベンチで。「よく英検2級受かったね、がんばったね」「テニスの試合、すごかったね」「この前のSDGsのプレゼン、すごくよかったです」などなどです。先生達の会議や雑談のなかで、卒業生の話がでると、その学年担当や担任よりも、實吉先生が一番よくその生徒のことを見ていらっしゃいました。私のフェイスブックに「實吉先生のお別れの会」の記事を

載せたところ、多くの卒業生からメールが届きました。生徒は、校長先生から話しかけられたこの一言を中高の懐かしい思い出として大切に覚えていました。

卒業式のときは、卒業証書を校長から、生徒ひとりひとりに渡すのですが、その時に、校長とその生徒にしかわからない言葉を据えて、渡していました。「迷っていたけど、看護学部を選んでよかったね。頑張ってね」「お母さんに感謝しなくちゃね」「君が卒業しちゃうと叱る生徒がいなくなつて寂しいよ」壇上で思いがけず校長先生からの声を掛けられて、嬉しくて泣き出したり、握手を求めたり、笑いだしてしまう生徒もいました。卒業式のときに校長の隣に立って卒業証書をお渡していた私にしかわからない風景で、私はいつも、その温かさに感動していました。

たまに、生徒同士でトラブルがあって、学校をやめていく生徒もいました。不満を持っている親も、担任、学年主任、教頭と話し、最後に實吉校長と話をすると、一転して感謝の気持を持つようになることも多かったです。實吉先生は、生徒には将来幸せになって欲しいと心から願い、他校に送り出すにあたって、その生徒の将来を考えて、一番いい進路を保護者と一緒に考え、ご自身の広いネットワークの中で、転校先の学校に受入れをお願いしたりしていました。その学校を卒業すると、親子でお礼に實吉先生を訪ねてくることも多く、私も陪席してうれしかったです。

實吉幹夫先生、東京女子学園のために、東京私学のために、全力で貢献なさり、本当に疲れさまでした。お別れの会のときに息子さんから、先生の最後のお言葉が、「ありがとう」だったとお聞きしました。實吉先生、本当にありがとうございました。どうぞ、安らかにお眠りください。ご冥福をお祈りいたします。

OKKの柱石だった實吉幹夫先生を偲んで エリア関東・OKK理事長 木谷朝子

世の中には、年齢を感じさせずいつまでも生き続けると思わせる人がいる。そんな人が亡くなった時の衝撃は、思考を止めさせ全てを無にしてしまう。その極限状態を作ったのは、實吉先生の訃報だった。お会いするといつも気さくに、「よっ!元気」と肩をたたいてくれた先生が逝かれた。残念な、残念な現実がここに存在する。

思い起こせば十数年前、現私塾ネット会長の鈴木正之先生と二人でアポイントも何もなく、實吉先生にお会いした時の事が、鮮明に思い起こされ脳裏に焼き付いている。

OKKの、「品川区大井町から発信して日本の子供たちが、教育を以てより良い方向を目指せるような環境を作りたい。教育こそが子供たちを幸せに導く」という趣旨を完全に理解してくださいました。そればかりか、OKK発足を目的とした私学との集会にも足を運んでくださり、「この意義ある会に参加して、発展させよう!」とおっしゃった。正に維新前夜を彷彿とさせる一夜だった。その後もOKKのどの場面でもなくてはならない先生だった。ご自身の立場をひけらかすことなく、一人一人の精神の支えでもあった實吉幹夫先生の御靈のご平安をお祈りいたします。



左、関志郎先生。右、大沼信雄先生。

大沼信雄先生を偲ぶ エリア東北 関志郎(関教育学舎)

私が大沼先生に始めてお目にかかったのは、仙台で社団の宮城県支部が開催する、進学相談会の会場でした。二十数年、或いはほぼ三十年前かと記憶しています。

その前後、社団の青森県支部長になった私は、県内の会員増強のために、何かしらのイベントを考えておりました。そこで、「進学相談会」を発案したのですが、私立高校との折衝、会場の設営・運営等に関して、ほぼ白紙に近い状態でした。そこで考えたのが既に何年も実行され、宮城県内の私立高校をほとんど網羅し、参加者も千名を超えていた宮城県支部の進学相談会でした。

仙台では、荒木氏を筆頭に、村川氏、小野寺氏、大沼先生を中心に、半年以上前から着々と準備され、進学相談会を開催されておりました。進学会会場を見学しながら、立案・高校との折衝方法、準備、運営等々を親身に教えてくださったのが、大沼先生でした。

学習塾の代表者である塾長には、「お山の大将」で、対応が難しい尊大な方も中にはおられるのですが、大沼先生は、非常に丁寧にわかりやすく、かつポイントを押さえながら、独特的のイントネーションと少し訛りのある話され方でしたが、温かみのある、人の良さがそのまま伝わる懇切丁寧な説明をしてくださいました。

その後、懇親会にも参加させていただきましたが、二次会・三次会では、東北支部の宴会部長という別名に違わない、明るくおおらかな先生の姿に魅了され、その後も私としては、多賀城の仲の良い先生という感覚で、お付き合いをさせていただいておりました。

社団のチャンネルの中では、私が東北支部長になってからも、快くサポートをしていただき、青森でイベントをする際には、仙台・多賀城から車を飛ばし駆けつけていただいたことも、一度や二度ではありませんでした。ただただ、感謝申し上げる次第です。

次のチャンネルは、パソコン教育推進協会です。碇氏、平林氏、石川氏と共に東北地方を回った際には、積極的に仙台での説明会に参加していただき、私に何度か問い合わせをいただく

ほど熱心にパソコン教育を研究されていました。私が、P蔵の試験監督官の資格を持っているときには、P蔵を受けたいので来てくれないかと要請があり、大沼先生の教室で、パソコン検定を実施したこともあります。講師の方も参加され、少し慌ただしいものがあったのですが、無事に合格され、喜んでいただいたことを懐かしく覚えています。大沼先生と講師の方々との関係も節度を持った明るい師弟関係のようで、非常に素晴らしいものがありました。

最後のチャンネルが私塾ネットです。2017年の総会で、久しぶりにお目にかかった折りに、「研修会の講演に興味があつて参加したけど、私塾ネットの研修会は素晴らしいね。」と言っていただきました。その数ヶ月後に、私塾ネットへの正式加盟の知らせを聞いて、友遠方より来たるという心境で、非常にうれしく感じたことを、鮮明に覚えています。

安藤氏から電話があり、大沼先生の訃報を知りました……。

何で、どうして、こんなに早く、いきなり…、戸惑いを覚え、悔い気持ちになってしまいました。

大沼先生、早いよ。また、味噌汁の歌を聴きたかったのに、また、麻雀をしたかったのに。

長い間、ご指導いただき、友誼を持って接していただいたことを、感謝いたします。

コロナの関係で、葬儀には参列できませんでしたが、本州の北端の地より、心より冥福をお祈りいたします。



平成20年10月12日、全国学習塾協会設立20周年式典にて功労者特別表彰を受ける。右に田中敏勝、長江勝秋先生。

平林治先生ご逝去に接し 私塾ネット会長 鈴木正之

平林先生と私の出会いは22年前、私塾ネット誕生の2年前になります。私塾ネットはご存じのように学習塾団体3団体（塾全協、日私会、PTF）が1つになりできた団体です。私はその2年前にPTFに入会させていただいたのですが、その時の理事長が平林治先生でした。入会したのは良いのですが、まさかすぐに新団体へ移行する話があるとは思っていませんでした。その時、新団体に移行するかどうかの賛否を新米の私も確認してもらえたことは嬉しく、「平林先生と谷村先生（当

時事務局長）についていきます」と即座に答えたことを鮮明に覚えています。他団体のことは解らず新しい団体（現私塾ネット）のことも解らなかったのですが、平林先生と谷村先生との出会いは衝撃的で、とにかくこの2人についていこうと思ったのです。そして私塾ネットの設立のための会議にも出させていただいたり、研修会の実行委員として使っていただいたりと平林先生との関係が近くなっていました。

私塾ネット設立後、私が広報部長の時に平林先生が編集長をしていただき、益々身近な存在となっていました。時には叱られ、時には怒られ、時には怒鳴られと、褒められたことは殆どありませんでした。しかし、平林先生に頼まれると妙に嬉しく、断ることは一切ありませんでした。そして時々「ありがとうよ」と言われるだけで満足している自分がいた気がします。

平林先生から教わったことは多々ありますが、その中の2つを紹介させていただきます。1つは、“みんな”という意識です。PTFでは会員は全員理事として活動していました。その方が「やりやすいだろう」とおっしゃっていましたが、彼は役職にはこだわりが無く、誰が偉いとか偉くないとかには興味が無く、1人1人大切な役割を持っていてすべての人が大切な存在であると考えていたからだと思います。定例会では全員の先生から平等に話を聞き丁寧に対応されていました。その結果、ほぼ全員(40名以上)参加の定例会を毎月開催できたのだと思います。それは私の中では理想の会の運営で、以後それを目指して私も活動しております。

2つ目は“陰で支える”ことです。私は45歳で関東代表、49歳で理事長となりました。若くして任されたのは、内部事情で「鈴木でも仕方がない」ということです。ですから、全く知名度がない若造に対して、周りの反応は「あんた誰?」という感じでした。特に関東代表になるときは、先輩の先生方から反対意見が出て簡単に決まりませんでした。全会一致で代表や理事長が決まらなかったのは後にも先にも、私が就任する時だけだったのではないでしょうか。その時に裏で先輩の先生方に連絡をして推してくれたのは平林先生です。理事長時代も全国の先生方との関係を取り持っていたことが何度もあります。誰も知らないところで私はどれだけ助けられたか分かりません。私塾ネット設立において多くの方のご尽力があったことは言うまでも有りませんが、平林先生無くして今の私塾ネットは語れない事を私は知っています。理事長を退いた私は現役員の先生方が働きやすい環境を作ることだと平林先生に教わりました。

本当に優しい先生でした。沢山の愛をいただきました。先生のおかげで今の自分があることは間違ひありません。ただ、一つ平林先生との約束で果たせなかつことがあります。それは、私の体調が悪い時、平林先生が「俺より先に死ぬなよ」と言うので、私は「先生の葬式に必ず出るからね」というものでした。コロナ禍ということもあり平林先生の告別式には行けませんでした。「平林先生、約束が果たせなくてごめんね。お詫びに先生あの世で一杯ご馳走するからね」。

| 私塾ネットセンター 事務局通信

事務局長 中村 庸彦（中村学院）



理科や数学を教えていると、問題を解くのに意外なところで止まっていることがあります。昨日、「くいが15本あります。間の数はいくつでしょう」との問題が解けない子がいました。このような、間の数の説明の場合はよく手を使って、指の数とその間の数の関係を説明したりするのですが、この生徒が分からるのは、「くい」。「くいって何?」。さてどう説明するか。ドラキュラの話をしても全く分からず。公園にあると言ってもピンとこ来ず。最終的には「棒のようなものだよ」でお茶を濁しました。このご時世です。インターネットで実物を見せれば早いのでしょうか、あえてそれをせず、いかに彼らの記憶を引っ張り出せるかを試したもの、あえな

く撃沈。改めて、「教え共に学ぶ」難しさを感じながら、「共感を作り出す授業」への工夫をし続けていかなければ自戒することができる出来事でした。理科では、「全反射」を感じるために風呂に潜ってみてとか、「月の満ち欠け」を実感してもらうために、この日この時の月の方角と形をみてとか、直結するものはあるのですが…。

* * * * *

<新規賛助会員のお知らせ>

株式会社サンケイワーク

大阪に本社をお持ちの空気洗浄機をメインに販売している会社です。フィルターを使わない、水を使った空気洗浄機でさらに超微細ミストによってリラックス効果もあるそうです。現在、当学院でも使用していますが生徒もリラックスして授業を受けられているようです。皆様もお気兼ねなくお尋ねください。

閑話休題 編集後記

編集長 谷村 志厚

令和2年も残すところ1月余り、コロナ感染の再拡大とともに、コロナとともに暮れようしている。コロナ感染には学習塾業界も大きな影響を被った。3月の学校一斉休業の衝撃からはじまり、つづく4月の非常事態の宣言に至って、抜き差しならぬ事態となつた。ちょうど新年度生徒募集期に重なつたせいもあり、同業者からは「生徒が増えぬ」という愚痴がよく聞かれる。景気刺激策としてGoToキャンペーンがなにかと物議を醸しているが、どなたか「GoTo塾」キャンペーンを提唱してくれない

だろうか◆本誌では3名の方の追悼文を掲載した。いずれも私塾ネットに縁の深い方ばかりである。平林さんは私塾ネットの前団体の一つ、PTFの最後の理事長として新団体誕生のきっかけを作られた。大沼さんは私塾ネットの経歴は浅いが、全国学習塾協会の役員として広く活躍をされていた。實吉さんは東京私立中学高等学校協会の副会長を長く務められた。私学の先生方の中では、塾業界との交流がもっとも深い方であった。進学相談会といった塾と私学の連携行事の嚆矢であり、この方の功績が大きい。いずれも長きにわたり私塾の発展に寄与された方ばかりである。合掌。

ちぎり絵歳時記⑯(秋海棠)

作画・中村光江

秋海棠(しゅうかいどう)という花をご存じだろうか。当方はこの表紙絵と添えられた句に接して初めて知った。歳時記では秋の季語に属し、中国原産のシユウカイドウ科の多年草の花。湿地を好み庭園などで栽培される云々とある。姿からは絵のごとく、茎から紅色の節と花柄が垂れ、その先に薄紅色の花をつける。掲句ではこの花房の垂れた様子を「うつむき惚ぶ」ととらえ、逝き人の追悼としている。この号では3名の方の追悼文を掲載した。個人的には1月に兄を亡くした。令和2年は「コロナの年」として記憶されるのだろうが、また一方で縁ある方の逝去に多く接し「秋海棠の年」と記憶することになりそうだ。(志)



しゅうかいどう
去りし入うつむき惚ぶ秋海棠(直人)

賛助会員一覧（順不同）

関東国際高等学校

東京都渋谷区本町3-2-2

東洋高等学校

東京都千代田区三崎町1-4-16

桜丘中学・高等学校

東京都北区滝野川1-51-12

聖徳大学附属女子中高等学校

千葉県松戸市秋山600

麹町学園女子中高等学校

東京都千代田区麹町3-8

春日部共栄中学高等学校

埼玉県春日部市上大増新田213

東京立正中学高等学校

東京都杉並区堀ノ内2-41-15

八雲学園中学高等学校

東京都目黒区八雲2-14-1

武蔵野中学高等学校

東京都北区西ヶ原4-56-20

東洋大付属京北学園

東京都文京区白山2-36-5

大森学園高等学校

東京都大田区大森西3-2-12

東京成徳大学中学高等学校

東京都北区豊島8-26-9

日本工業大学駒場中学高等学校

東京都目黒区駒場1-35-32

青稜中学高等学校

東京都品川区二葉1-6-6

東京女子学園中学高等学校

東京都港区芝4-1-30

駒込学園中学高等学校

東京都文京区千駄木5-6-25

爱国中学高等学校

東京都江戸川区西小岩5-7-1

安田学園中・高等学校

東京都墨田区横網2-2-25

日本音楽高等学校

東京都品川区豊町2-16-12

立正大学付属立正中学高等学校

東京都大田区西馬込1-5-1

上野学園中学校・高等学校

東京都台東区東上野4-24-12

村山 サンドラー 先生

TEL : 03-3376-2244

石井 和彦 先生

TEL : 03-3291-3824

高橋 知仁 先生

TEL : 03-3910-6161

川並 芳純 先生

TEL : 047-392-8111

上田 翼 先生

TEL : 03-3263-3011

宇野 穎弘 先生

TEL : 048-737-7611

安原 正樹 先生

TEL : 03-3312-1111

横山 孝治 先生

TEL : 03-3717-1196

浅見 尚次郎 先生

TEL : 03-3910-0151

井出 秀己 先生

TEL : 03-3816-6211

三浦 圭 先生

TEL : 03-3762-7336

野中 修也 先生

TEL : 03-3911-7109

河村 文夫 先生

TEL : 03-3467-2130

伊東 充 先生

TEL : 03-3782-1502

實吉 幹夫 先生

TEL : 03-3451-0912

河合 孝允 先生

TEL : 03-3828-4141

高橋 英夫 先生

TEL : 03-3658-4111

仁木 健嗣 先生

TEL : 03-3624-2666

伊庭 崇 先生

TEL : 03-3786-1711

今田 正利 先生

TEL : 03-6303-7683

高橋 公三子 先生

TEL : 03-3847-2201

二松学舎大学付属高等学校

東京都千代田区九段南2-1-32

村田女子高等学校

東京都文京区本駒込2-29-1

自由学園(中等部・高等部)

東京都東久留米市学園町1-8-15

京華学園

東京都文京区白山5-6-6

武蔵野大学千代田高等学院

東京都千代田区四番町11

目黒日大中学高等学校

東京都目黒区目黒1-6-15

共栄学園中学高等学校

東京都葛飾区お花茶屋2-6-1

中村中学・高等学校

東京都江東区清澄2-3-15

文教大学付属中学高等学校

東京都品川区旗の台3-2-17

国際高等専門学校

石川県金沢市久安2-270

(株)私塾界

東京都豊島区東池袋1-39-1三善ビル3F

デザインオフィスズキ

千葉県柏市柏687-6

(株)POPER

東京都中央区日本橋茅場町1-13-21-4F

(株)塾と教育社

東京都千代田区飯田橋4-4-8-310

(株)ブックモールジャパン

埼玉県戸田市上戸4-2-33 日教販戸田センター

教育開発出版(株)

東京都杉並区下高井戸1-39-12

(株)クロノクリエイト

東京都渋谷区神宮前5-52-2-2F

(株)声の教育社

東京都新宿区新小川町8-15

ソルナ(株)

東京都中央区築地2-9-4 SOLUNA BLD

アロー教育総合研究所

東京都千代田区神田小川町3-8-5F

車田 忠継 先生

TEL : 03-3261-9288

遠藤 賢 先生

TEL : 03-5940-4455

更科 幸一 先生

TEL : 042-422-3111

今野 巍 先生

TEL : 03-3941-6493

岡田 孝子 先生

TEL : 03-3263-6551

天野 正貴 先生

TEL : 03-3492-3388

松宮 博 先生

TEL : 03-3601-7136

富田 義道 先生

TEL : 03-3642-8041

神戸 航 先生

TEL : 03-3783-5511

松尾 多郎 先生

TEL : 076-248-1080

山田 未知之 様

TEL : 03-3987-0838

鈴木 学 様

TEL : 04-7164-8276

栗原 慎吾 様

TEL : 03-6265-0951

加藤 麻由美 様

TEL : 03-6265-6855

搅上 聰 様

TEL : 048-447-7457

糸井 幸男 様

TEL : 03-3304-5291

添田 大亮 様

TEL : 03-5468-6986

中村 千尋 様

TEL : 03-5261-5061

森 雅人 様

TEL : 0120-934-515

吉川 貴央 様

TEL : 03-3259-2851